

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

「穀物を磨き 未来を創る」を経営理念とし、社員が業務を通じてSDGsの理念を共有することで地域の持続的発展に寄与する

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に☑)	SDGsに関する重点的な取組み	指標 (更新時に向けた数値目標)
☒ 環境 ☐ 社会 ☐ 経済	・製品の包装材料の脱プラスチック化。	・バイオマス素材及びリサイクルペットフィルム素材を使用した包材の使用率(年間出荷量ベース)。 ・2023年6%→2026年50%。
☒ 環境 ☒ 社会 ☐ 経済	・廃棄食材(フードロス)の減少。	・食材廃棄量(年間)。 ・2023年224t→2026年100t。
☐ 環境 ☐ 社会 ☒ 経済	・年齢やジェンダー、国籍を問わない採用の実施。	・採用の人数。 ・2023年10人→2026年20人。
☐ 環境 ☒ 社会 ☒ 経済	・途上国支援とフェアトレードの実施。	・途上国からの原料受け入れ量(年間)。 ・2023年0t→2026年200t。
☐ 環境 ☒ 社会 ☒ 経済	・地域の農産物を積極的に使用することで地域経済の持続的発展に寄与。	・九州産原料の買取(年間)。 ・2023年9500t→2026年12000t。

<パートナーシップ>

建幸穀物で世界中の「つくる」をつなげる。(生産者から消費者までの連携構築)
穀物の価値を高め農業と製造、消費者をつなげる。(バリューチェーンの構築)

・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。
・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時までの数値目標を記載してください。
・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携を記載してください。

<SDGsに関するこれまでの重点的な取組み及び指標に係る進捗状況>

三側面 (分野に☑)	取組みの状況	前期の指標	実績
☐ 環境 ☒ 社会 ☒ 経済	・地域の農産物を積極的に使用することで地域経済の持続的発展に寄与することを目的に積極的な県産麦の買取を実施。 ・需要の増加により九州産だけでは足りずに他の産地の買い付けを増やしたため相対的に九州産の比率は80%と低下したが買取実績は9500トンに倍増。	・国産原料は九州産の比率を90%以上に維持することを目指す。 県産麦買取実績の維持年間4000トン以上。	・九州産の比率は80%。 ・県産麦買取実績2023年9500トン。
☒ 環境 ☐ 社会 ☐ 経済	・環境に配慮した植物由来の原料を配合したフィルム、またはペットボトルを再利用したリサイクルペットフィルムを使用した包材の使用推進を目標としたが、コロナ禍の影響による資材高騰のため目標を下回った。	・バイオマス素材及びリサイクルペットフィルム素材を使用した包材の使用。 ・2020年1%→2023年90%以上	・2020年1%→2023年6%。
☐ 環境 ☒ 社会 ☒ 経済	途上国の支援(契約栽培とフェアトレードの実施) JICA事業と連携し途上国へ栽培・加工の技術移転を行い、持続的な地域開発の支援を行う。	途上国からの原料の受け入れ。 2020年50トン→2023年500トン	2023年0トン *支援先のミャンマーのクーデターの為事業中止。カンボジアにシフト中

・「取組みの状況」には、前回登録申請した際の重点的な取組みの実施状況や指標の達成状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。